

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	地域活性化／特産品開発(ブランド創出・販売促進型)
手法名	ヨシ原の保全とヨシ紙への活用
主体	山田兄弟製紙(株)
背景(地域の課題)	<p>大阪府高槻市にある淀川最大の河川敷に位置する「鶴殿ヨシ原」は、土佐日記にも記述がみられ、雅楽のひちりきのリード材料としても珍重されるヨシ原である。しかし近年人の手が入らなくなったことによって陸地化が進み、他の植物に置き換わりつつあるという課題を抱えていた。</p> <p>一方伝統的な越前和紙のメーカーである山田兄弟製紙(株)では、株券の電子化に伴い従来の紙販売が困難になる中で、保全活動への貢献と自社独自の和紙開発と販売促進方法を模索していた。</p>
手法／方策の詳細	<p>ヨシ原の保全活動の最大の問題は、刈り取った後のヨシをどう処理するかである。そこで、越前和紙メーカーである山田兄弟製紙(株)では、刈り取ったヨシを材料にヨシ紙を開発。ヨシ紙の販売によって得られた収益の一部を保全活動のための資金として還元している。</p> <p>また、鶴殿ヨシ原だけでなく、全国のヨシ原保全団体と交流して、地域にあったヨシ紙の開発と活用を促進している。例として、卒業証書への利用、環境をテーマにしたイベントなどのノベルティバッグなどがある。</p>
手法・技術的視点	<p>かつて里地里山の暮らしの営みの中で、畜産や家屋などで幅広く活用されていたヨシ原は現在その用途を失い、ヨシ原に人の手が入らなくなったことで陸地化し消滅しつつある。ヨシには水の浄化作用もあるとされ、伝統的な景観だけでなく水質の保全やヨシ原に生息するさまざまな生き物の保全上も全国的に大きな課題となっている。</p> <p>本事例では、ヨシの新たな活用策を提示すると共に、開発した商品を通じた保全活動の幅広い普及啓発への道筋も示しており、各地の保全・活用活動へ示唆するところが大きいと考えられる。</p>

<p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p>	<p>ヨシ原の保全とヨシ紙開発・販売の循環</p>
<p>図・写真資料</p>	<p>ボランティアによるヨシ刈り作業</p> <p>刈ったヨシはやぐらを組んで乾燥させる</p> <p>ヨシから繊維を取り出してつくったヨシパルプ</p> <p>開発されたヨシ紙の例</p>
<p>参考資料</p>	<p>平成25年度里なび研修会in福井県勝山市パワーポイント資料「SAVE THE 鶺殿ヨシ原 ～今 越前和紙にできること～」(山田兄弟製紙(株))</p>